

第1回文化芸術推進基本計画推進委員会

議事要旨

日時：令和5年8月22日（火）
午後6時30分～7時45分
会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員及び事務局自己紹介
- 5 議題
 - ①委員長、副委員長の選出
 - ②文化芸術推進基本計画の概要について
 - ③文化芸術推進基本計画の進捗状況について
- 6 その他
- 7 閉会

配付資料

【配布資料】

- 1 昭島市文化芸術推進基本計画推進委員会要綱
- 2 文化芸術推進基本計画（概要）
- 3 文化芸術推進基本計画進捗状況調査票

出席者（敬称略）

委員長・・・新谷尚紀（昭島市文化財保護審議会委員）

副委員長・・・児玉 真（一般財団法人地域創造）

委員・・・大澤俊則（昭島市文化協会）、上野美樹（昭島市民会館文化事業協会）、上岡健人（昭島郷土芸能協会）、堀井真理子（一般社団法人昭島観光まちづくり協会）、本間ゆかり（公募市民）

事務局・・・永澤企画部長、村山企画政策課長、小森企画政策係長、後藤企画政策係主任
磯村生涯学習部長、立川市民会館・公民館長、岩波アキシマエンス管理課長

1 開会

事務局・・・ 本日は、お忙しいところ、昭島市文化芸術推進基本計画推進委員会に御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

スムーズな運営を心がけたく存じます。

進行につきましては、正副委員長が選任されるまでは事務局が務めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

2 委嘱状交付

事務局・・・はじめに、委嘱状の交付でございますが、委嘱状につきましては、机上への配付に代えさせていただきたいと存じます。

3 市長あいさつ

○市長あいさつ

4 委員及び事務局自己紹介

○委員及び事務局自己紹介

5 議題

(1) 委員長、副委員長の選出

事務局・・・続きまして、日程5、委員長、副委員長の選出を議題とさせていただきます。本件につきましては、昭島市文化芸術推進基本計画推進委員会要綱 第5条第1項におきまして、「委員会に委員長及び副委員長を置く」と規定され、さらに同条第2項におきまして、「委員長及び副委員長は、委員の互選により定める」と規定されてございます。

選出につきましては、事務局から腹案がございます。委員長については新谷委員に、副委員長については児玉委員にお願いしたいと思いますが、御異議ありませんか。

【拍手】

御異議がございませんので、委員長には新谷委員、副委員長には児玉委員が決定いたしました。

それでは、こちらの席に移っていただきまして、それぞれ御挨拶をいただきたいと思います。

はじめに新谷委員長から就任の御挨拶をいただきます。

委員長・・・今委員長を御指名されました新谷です。御意見をまとめることができるかどうか分かりませんが、ぜひ市に良い意見を出して行って、皆さんと共にこの事業を推進できるよう努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局・・・続きまして、児玉副委員長、御挨拶をお願いします。

副委員長・・・地域創造の児玉と申します。元々は、音楽の仕事をしておりまして、特にクラシック音楽をしていて、全国の公共施設へのセールスなどをやっていました。この辺だと、立川市民会館や秋川のキララホールなどです。ある時誘われて、ホールの仕事を始めて、そこから公共ホールに興味を持ち、公共ホールのいろいろな企画の仕事をやってきました。地域創造自体はもうじき20年になるんですけど、若い頃は全然そんなつもりはなく、あまり役所と付き合うという意識がなかったのですが、最近そういうことが多くなっております。

地域創造は文化会館を応援する組織です。文化芸術を直接応援することは文化

庁がやっています。地域創造は総務省系なので、地域の文化状況を良くするために取り組むことが基本的な姿勢になっていて、そうしたもののお手伝いを僕の場合は音楽を中心にあちこちでやらせていただいております。

芸術文化で非常に難しいことは、例えば音楽でも、地域のアマチュアの方から、本当の超一流プロフェッショナルまで、いろいろな方がいらっしゃって、そうした方とどのように付き合っていくのか。どのようにすれば街が一番いい状態で活性化できるのか。そうしたことを考えたけれど、これはまだ答えがないです。そういうことを考えながら、今やっているところです。特に若い人が自分で、ただのお客じゃなくて、自分で何か参加してやるでもなく客でもなく、その間に入るような僕なんかがやっている役割にもっと参加していただくと、面白くなってくるんです。そのようになるといいなと、全国どこでも思ってることです。昭島でもそうしたことで何かお役に立てればと思います。よろしくお願いします。

事務局・・・ それでは、これからの進行につきましては、委員長にお任せいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

(2) 文化芸術推進基本計画の概要

委員長・・・ ここからは、私が議長として議事の進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議題の(2)文化芸術推進基本計画の概要につきまして、事務局から説明をお願いします。

事務局・・・ 資料2を御覧ください。本日は、第1回の委員会ですので、本委員会の立ち位置といいますか所掌する事項、昭島市文化芸術推進基本計画の概要について簡単に御説明申し上げます。

はじめに、本委員会が所掌する事項でございますが、昭島市における文化芸術推進基本計画に係る施策の推進及び効果検証並びに見直しに関することとされております。

委員の皆様には、昭島市の文化芸術を推し進めていくうえで、どういった施策展開が効果的なのか、望ましいのかなど、中長期的な視点をもって、それぞれのお立場から御意見を頂きたいと考えております。

本委員会で頂いた御意見につきましては、事務局で取りまとめのうえ、次の施策展開、計画策定に活かしていきたいと考えております。

次に、計画の位置づけでございます。

まず、昭島市における文化芸術施策につきましては、「昭島市文化芸術基本条例」に基づき平成22年に策定した「昭島市文化芸術の振興に関する基本方針」を指針として展開してきました。

この「基本方針」の策定から10年余りが経過し、また、平成29年に改正された「文化芸術基本法」の趣旨を踏まえ、令和4年度を初年度といたします昭島市総合基本計画の分野別計画として策定したのがこちらの文化芸術推進基本計画でございます。

計画期間は、令和4年度から10年ですが、中間年で見直しを予定しており、現在は前半期の計画ということになります。

本計画では、基本方針として、
基本方針① 市民の自主的な文化芸術活動の促進
基本方針② 市民の文化芸術に関する意識の高揚
基本方針③ 市民の文化芸術に接する機会の拡充
基本方針④ 文化芸術活動に係る環境の整備及び充実
基本方針⑤ 歴史的文化遺産と伝統的な文化芸術の保存、継承及び活用又は発展
基本方針⑥ 文化芸術活動を担う人材の育成
の6項目を掲げてございます。

そして、この基本方針に基づき、具体的な基本施策を取りまとめ計画としております。

本計画は、先ほどもお話ししました平成29（2017）年6月に改正された文化芸術基本法の趣旨を踏まえた内容としておりますが、その特徴といたしましては、
・これまでの文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との連携を図ること
・文化芸術により生み出される様々な価値を活かしつつ、伝統的な文化芸術の継承、発展及び創造に活用すること
といった視点を踏まえた計画としております。簡単ではございますが、説明は以上となります。

委員長・・・ よろしいでしょうか。後で御意見があれば事務局までお願いします。

（3）文化芸術推進基本計画の進捗状況

委員長・・・ 次に、議題の（3）文化芸術推進基本計画の進捗状況について、事務局から説明していただきます。

事務局・・・ それでは昭島市文化芸術推進基本計画の進捗状況について御説明いたします。資料3を御覧ください。

3ページにわたりまして、文化芸術推進基本計画において主要施策と位置づけた事業の令和元年度から4年度までの実績や新型コロナによる影響、各事業・取組の効果又は課題をまとめたものでございます。

かなりの事業数がございますので、代表的な事業について御説明させていただきます。

はじめに1ページの一番上、「市民総合交流拠点施設の整備」についてです。こちらは老朽化のため閉鎖した市民交流センターに代わる施設として、令和7年度に開館予定の市民総合交流拠点施設におきまして、3階の廊下スペースを文化の回廊として文化芸術に関わる作品の展示を予定しております。

次に「あきしま市内芸術家公募展・芸術家の卵展」については毎年昭和の森芸術文化振興会との共催事業として、多くの芸術家、生徒・児童の作品を市役所及びモリタウンを会場に開催しております。

その下の「昭島・昭和の森武藤順九彫刻園の運営」については、フォレストイン昭和館敷地内においてイタリアを拠点に世界で活躍する彫刻家武藤順九氏の作品を9点展示しております。

次に「文化芸術を観光資源とした見学ツアーの実施」については、観光資源として文化芸術施設の見学を組み込んだ町あるきやワークショップ等を実施しております。

「市民会館自主事業」については、大ホール及び小ホールにおいてファミリー向けや子供向け事業、コンサート、演劇、寄席（よせ）など様々な分野で実施しております。

最後に「伝統芸能の後継者の育成」及び「地域の文化財の保護、保存」についてです。

伝統芸能の後継者の育成、伝統芸能の保存・継承のため、文化財保存事業費補助金を支出しております。今後についても継続して、未来への投資につなげていきます。

また、「地域の文化財の保護、保存」については、文化財保護審議会や各取組を通じて、文化財の保護・保存に努めております。今後についても、次世代へ確実に継承していくため引き続き保護・保存を図っていくとしております。

この資料は本日初見の資料となりますことや、細かい内容になっていることから、本日この場で御議論いただくことは難しいと考えております。気になる点や御質問等がございましたら、9月1日を目途に事務局まで御連絡いただければと考えております。

簡単ではございますが、説明は以上となります。

委員長・・・ 膨大な内容でありますので、持ち帰っていただき具体的な御意見があれば9月1日を目途に事務局まで御連絡ください。

6 その他

委員長・・・ 次に、日程6 その他、です。

今回は初めての委員会でございます。本日は文化芸術に関する様々な分野で御活躍されている学識経験者や公共団体の代表、公募による市民委員の皆様に御参加いただいております。

せっかくの機会ですので、皆様の活動内容や昭島市の文化芸術推進に関する御意見、御提言等どんなことでも結構ですので、お一人ずつ3分～5分程度お話しいただければと思います。

初めに私からお話しさせていただきます。

私は専門が歴史や民俗学です。昭島に住んで50年ほどになりますが、忙しくて帰ってきて、ただ寝るだけでした。だけどだんだんと地域のことが見えてきますと、多摩川流域で武蔵野台地ってのは水がなくて、玉川上水から江戸時代はかなり武蔵野新田で開発されました。縄文、弥生から長い歴史がこの狭いエリアにコンパクトにある。そこで培われている文化があります。八王子とも立川とも近いし青梅も奥にありますし、なかなか独自の歴史を持っています。やっぱり子供たちに昭島が狭いことが良いことであると知らせていくことが大切だと思います。昭島は拝島、昭和、郷地、福島、中神、大神などコンパクトなところですので、かなり文化的なアクションが出るんじゃないかと思っています。私の立場

からしますと、昭島の良さを子供たちに知らせる。私は通勤族みたいな人間だったので帰っただけで何にもしませんでした。だけど知れば知るほど良いところ、それで結局お墓もここをお願いしたいとなるわけです。私はやはり二代、三代と昭島に住んで、ネイティブの人と、ニューカマーの人たちが、両方が刺激し合いながら、地域の文化を活性化させていく。その基礎が昭島の環境の中にあると思います。その基礎とは何かというと、やはり先ほど市長が言っておられましたけど、水の便利。これは人類の歴史の中で大きな部分であるんです。そのことから、昭島の良さ、歴史とか文化の良さを子供たちに知らせてあげるような、そういうアクションがあるんじゃないかなと思っています。

副委員長・・・ 本当に申し訳ないと思うんですけど、実は今日初めて昭島の駅で降りました。面白いのはこんな丘の方なのに、島のつく地名が、三つぐらいあるんでしょうか。川が合流してたからでしょうか。島というのは文化を作ってくのに、自分たちの文化と、それから外来の文化をうまく融合させていくっていう意味では外来に負けずにやれるっていうある意味、島の良さっていうあると思います。ただ、やはり島というと島国根性とか言われますけど、逆に言うと、外から来たものを受け入れないという風土もどうしても出てしまうというところがあってそういう意味では舵取りっていうのは、なかなか難しいのかも知れません。

各地で市民の文化協会などのいろいろな集まりにいくつか参加させていただいた印象として、やはり皆さん自分の分野がすごく大事で、自分の活動自体が価値があると思っています。確かにそうなのですが、例えば僕がやってるクラシック音楽は、大体お客さんの層は何%ぐらいだと思いますか。クラシック人口って1%なんです。だから、昭島でクラシックをよく聞いたりしてる人は、1%って言うとも1000人ぐらいしかいないということです。ある時それに気がついて、僕は詳しくよく知ってて、いいところ、悪いところを知っているが、もしかしたら99%の人は、それを知らずに過ごしてるんだなというように考えてました。だから、行政や文化会館が関わるべき一番大事なことは残りの99%の人に何をできるんだろうというように考えていくことだと思います。僕の場合は、一種の普及的な活動を上から目線じゃなくやれるのが一番いいんじゃないかなと思っています。文化はジャンルが細かく分かれ過ぎていて、それを束ねた考え方って本当になかなか作りにくいのですが、99%の人のことを考えようというところからそれぞれスタートすると、やれること、やることある程度ははっきりしてくるんじゃないかなと思っています。皆さんそれぞれ専門があると思うので、その辺の状況もわからないのですが、考え方としてはそうかなというふうに思っています。

10年ほど前ですが、人口30万ぐらいの福島県いわき市のホールを頼まれて、プロデューサーとして関わりました。まずいわき市は面積が広いんです。23区より大きいんです。そうしたところに市の真ん中に素晴らしいホールができて、関係のある市民はそれほどいないのです。自分のこととして考えてくれる市民がいないと困るので、ホールは直営だったんですけど、私はコミュニティの専門を作ろうということで当時珍しかったんですけど、その音楽担当のプロデューサーと演劇ダンス担当のプロデューサーとコミュニティ担当のプロデューサーを置きました。コミュニティ担当のプロデューサーというのは、市内の様々な活動をしている人になるべく会いに行ってくださいと。別に文化活動じゃなくてもいいんですけど、なるべくたくさんの人と会って、その人たちの希望を聞いて、そこに見合ったものが出せるようにしました。人数は結局音楽2人、演劇ダンス2人、

コミュニティ2人という企画チームを作ってやりました。やはり地域と付き合っていると本当にいろいろなことがわかってきます。本当に知らないことがたくさんありました。「いわきアリオス」という会館はそれをまだ守ってくれていています。そうした取組のベースは、音楽クラシックわずか1%だよなというところからスタートした事でした。そういうことが昭島でもできるといいのかなと思っています。

大澤委員・・・ 私は昭島市文化協会の理事長をしています。私自身音楽にあまり興味がなく、普段は行かないのですが無料ということもあり、市民会館のオーケストラコンサートに行ったことがあります。音楽に明るくなくても、素晴らしいと感じました。市民会館（大ホール）の座席数は約1,200数ですが、かなり盛況でした。それでも聴きに来た人は昭島市の人口の1%に満たないですね。いざ聴くと素晴らしいのですが、やはり聴いたことがないから食わず嫌いという方が多いのかもしれない。同じように他の文化芸術についても一部の人は知っていても知らない人がほとんど、というものがあるのかもしれない。

昭島市文化協会は生け花や写真、絵画など様々な分野の団体の集まりなのですが、そうした団体の集まりは当初たくさんありましたが、徐々に減ってきております。やはり文化協会に加入してしまうと、会議に出たり、役員を持ったりと忙しく、責任を伴うリーダーのなり手がおらず、加入しないという団体が多いです。

また、文化協会の中で私は昭島美術協会に所属していて絵を描いています。美術協会も、会員を昭島市広報で年1回募集すると加入してくれる方もいるのですが、高齢で辞める方が多く、会員が徐々に減っています。昭島市で絵が好きな人や絵を描いている人はたくさんいると思いますが、昭島美術協会やその活動知らない人もたくさんいると思います。美術協会のことをもっと知ってもらいたいと思いますが、なかなか限界があります。他の文化芸術一般についても同じことが言えると思いますが、その団体の紹介や活動内容について、市民に知らせるための情報伝達がうまくできたらいいなと思っています。

上野委員・・・ 私の活動拠点は昭島市宮沢町諏訪神社内の神楽殿で宮澤太鼓に所属しています。会員は小学1年生から70代程まで、3世代が集まり約30名の会員が在籍しています。今回、2019年に昭島市の広報紙にシニア世代向けの募集をかけました。

理由としては、コロナウイルス感染症の影響により、世間は自粛傾向に。必要以上に自宅に閉じこもってしまうことを危惧し、“認知症の予防・運動不足による体力の衰えなどの影響を軽減させるためにも、外に出て和太鼓に触れてみませんか？脳活性してみませんか？”と募集をかけました。その結果、10名程入会にし、現在2023年も継続し太鼓を続けています。月に3回、日曜日の午前10時より3時間程の全身運動と脳活性を太鼓で行っています。

漸く、コロナも落ち着き、イベントも増えてきたおかげでたくさんの方の前で披露させてもらっています。今回入会された皆さんの目的は、普段関わることが出来ない和太鼓に触れてみたい。身体や頭を使って健康になりたい！という気持ちが強かったそうです。しかし、太鼓の基礎を覚え、曲を習得していくうちに、人前で演奏したい。という気持ちが強くなり皆さん積極的に自主練習にも励んでいます。このような、経験が蓄積されその結果、自信へと繋がり、皆さん笑顔で溢れています。何か始めるきっかけを自ら掴み、行動に起こすことで可能性は大きく広がっていきます。宮澤太鼓のシニアの皆さんはとても元気で明るく、前向

きな方ばかりです。しかし、最初からそうであったわけではありません。和太鼓は、不思議な力を秘めています。

先日、アキシマエンスでの市民図書館 50 周年記念イベントで 1 時間の演奏時間をいただき、そのうち 30 分を“ふれあい太鼓”といって和太鼓に触れてもらう時間を設けました。有難いことに、大好評でした。お子さんから大人の方まで多くの方に太鼓を体験してもらいました。今後も市民の方に、和太鼓に触れてもらえる機会を増やし、伝統文化である和太鼓を知ってもらいたいです。

コロナもだいぶ緩和している中で、何か始めたい、趣味を見つけないかと思っていらっしゃる方はいませんか？そういった時に、検索しやすい環境・問合せしやすい環境を整えていただきたいと思います。昭島の芸術文化がより多くの市民に広がることで、昭島市全体が“明るく、元気なまち”になっていくと思います。

上岡委員・・・ 私の住んでいるところは東中神で、昭島市の中でも東側なんですけれども、この町内会でお囃子とか神輿などをやっています、実は昭島市の中にお囃子などをやってる団体が 7 つ、こちらの市役所職員の方の同好会みたいなものを入れると 8 つ団体があります。大体皆さん神社があつてそこに神輿とかお囃子があるんですけれども、私が住んでいるところは神社がないというのもすごく特殊なところです。戦中戦後に人がたまたま集まってきて、移り住んできた人たちがやっぱり楽しみがない、お祭りみたいなものをやりたいということで始めたようです。そうしたことから、少し特殊な環境にあつて郷土芸能協会とは言っても、それを代表して話せるか分かりませんが、そこに住んでいる人が年代、性別を超えて一緒に楽しめる環境を手段として提供してあげることで、その地域の方が仲良く交流できる。子どもからお年寄りまで 1 つのことを伝えていけるということが郷土芸能の良さなのかと思います。

いずれにしても、実感があるっていうことがとても大切なんだと思っています。実感というのは感覚で言うと目、耳、鼻、口、皮膚じゃないですけど目で見てわかるものは目で見てわかるんですが、例えば音楽は耳で聴いてとか、太鼓でしたら実際に叩いていってその鼓動がわかるとかそういったことです。私は現役時代は食品会社に勤めていました。食べ物を扱っていたんですが、美味しさは言葉や視覚的なもので伝えられなくて、実際に食べてみて、体験を共有する、実感をするっていうことをやらないと美味しさってこう伝えていくのが難しいです。ですから、実感があるような場面、例えば、皆さん練習場とか、機会とかいろいろなことを言われて、その通りだなとは思ったんですけれども、やはり特殊な能力の人の特殊な場所っていうことよりは、みんなが集まるとか、馴染みやすさとかやってみて楽しいとか、そういうことができることが一番いいのかなというように思っています。

特に生きがいとは何かとなったときに、一つは今皆さん言われたように達成感、なりたい自分になれるっていう自己実現であったり、達成感であったりが大切なんですけれども、私も年を取ってきたんだと思うのは、誰かのお役に立っている。人を幸せにすることに携わることも生きがいの一つなのではないかと思っています。人間にとって一番大切なのは命ですから、命を大切にする。一緒にいる人を幸せにする。そんなことに喜びを感じられるような場面を創出できればいいかなと思っています。

堀井委員・・・ 私が勤務している昭島観光まちづくり協会は、例年5月に開催している郷土芸能祭を昭島市と共催で主管部署として開催しています。コロナで4年間開催できなかったのですが、今年5月に久しぶりに屋外開催しました。そのときに思ったことは、郷土芸能まつりは、出演団体の方の披露がメインになっており、なかなか体験ができていないということです。宮沢太鼓さんなどがやっていただけるんですけど、全員が体験できるわけではありません。そう考えると郷土芸能は見せるだけでいいのかと最近思っています。どこかで子供たちなり、大人が体験できる場所が本当は別にあった方がいいんだろうなとコロナを経て感じたところです。

ここ2、3年、つつじが丘小学校と拝島第二小学校という昭島市北部にある小学校から昭島の良さや住みやすさについて3年生と6年生の総合学習で講義をしてくださいという依頼がありまして、授業に出張に行っています。市内の北部にある小学校ということで郷土芸能を知らない子供たちがほとんどです。といいますのも昭島市は青梅線を挟んで南側の拝島、福島、郷地の辺りは昔から人が住んでいたので神社があり、郷土芸能をやっているみんな知ってるんですけど、北部は新しい住宅地なので、子供たちは町内会のお祭りしか知らず、郷土芸能というものを知りません。話をするとやってみないって話を聞きます。そうした子供たちにも知らせてあげたいし、体験させてあげたいなと思います。施設や機会も含めて、子供たちにいろんなものを体験させてあげられる体制を今後提供していけたらいいな、というのは仕事を通じて感じたことです。

ここからは個人的な話ですが、私は6年ぐらい前から合唱をしているのですが、やってるうちに、もっと歌が上手になりたいなと思って、声楽を習うようになりました。声楽を習うと今度はクラシックにもちょっと興味が湧いてきたりとか、オペラ見てみたいなとか思ったり、自分の体験として何か一つやってみると、それに派生していろんな事に興味が出てくるんだっていうのを感じています。多分、文化芸術を体験される皆さんも同じようなことなんじゃないかなと思います。

私は子育てが一段落したときに、何か趣味を見つけたいなと思っていたんですけども、市の広報紙に出てくるその文化団体の情報が少なすぎて、自分の感覚にヒットするものが見つけられないということを実感しました。バレエダンスに誘われて、市内の団体に参加したときに、先生が昭島の文化団体を全部掲載している冊子を持っていました。もしかしたら市役所の担当部署に行けば、その冊子を見せて紹介してもらえるのかもしれないんですけど、なかなか情報入手できるまでに至らないと思いました。ですから、もう少し市の方から文化団体を紹介するような窓口があるので気軽に相談に来てくださいというような情報発信があったらいいのかなと思いました。

また、これもすごく個人的な意見なんですけど、最近私すごく音楽に興味を持っているので、立川市のRISURUホールやあきる野市のキララホール、羽村のゆとろぎでは、演奏会やオペラが多く開催されていて、すごく行きたいなと思うんですけど、昭島市はそうした音楽関係の催しが少なくて残念だなと思っています。日本の芸能だけでなく、幅広くクラシックなり西洋の音楽なども、市として紹介してもらえたらいいなと最近思っているところです。

本間委員・・・ 皆さんの話を聞いて、やはりこれから未来に向けて、子供たちに対して、体

験や達成感などがやはり必要だと思ってます。それには情報の発信の仕方がやはり一番大切だと思いました。情報の発信の仕方に参加してみたいなとか、今堀井委員さんがおっしゃったように、市の広報紙を見てても、時間帯が合わなかったりします。例えば、働いてる人が団体の芸術とか音楽とかに携わりたくても、活動時間が平日午前中の 10 時とかですと、仕事をしていれば参加できないし、子供たちは土日でも習い事で時間が合わなかったりします。参加してみたい、やってみたいけど、時間が合わないということもあるので、例えば夏休みの期間だけなど、いろいろな時間帯で参加できるようになればいいなと思いました。

委員長・・・ ありがとうございます。今日出た様々な御意見を事務局で集約させていただいて進められればと思います。

堀井委員・・・ 資料に対する質問のフィードバックはどのような形になりますか。

事務局・・・ いただいた御質問については、次回の委員会で委員の皆様に共有させていただきます。また本日の議事録についても皆様に確認させていただきたいと思います。

委員長・・・ 他に事務局から何かございますか。

事務局員・・・ 次回の日程につきましては、12月頃の開催を予定しております。具体的な日程は委員長と相談のうえ、決定次第御連絡いたします。

また、本日の資料3、「文化芸術推進基本計画の進捗状況について」に関する御意見等につきましては、9月1日を目途に、事務局まで御連絡いただければと思います。

7 閉会

委員長・・・ 以上で、第1回昭島市文化芸術推進基本計画推進委員会を終了します。